

(7) 中学校数学の調査結果について

①領域及び観点ごとの調査結果

全国平均と比較して、		上回っている	下回っている				
分類	区分				平均正答率(%)		
					福岡市	全国(公立)	
全体						51	51.4
学習指導要領の領域	A	数と式			57.6	57.4	
	B	図形			43.3	43.6	
	C	関数			43.2	43.6	
	D	データの活用			56.0	57.1	
評価の観点	知識・技能				59.3	59.9	
	思考・判断・表現				36.3	36.2	
	主体的に学習に取り組む態度						

- ◆領域では、「図形」「関数」「データの活用」において、全国平均を下回った。
- ◆評価の観点では、「知識・技能」において、全国平均を下回った。

②平均正答率が高かった問題

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
5	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している	82.0	83.3	-1.3
6 (1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	74.8	73.8	+1.0

- ◆問題番号5は、「確立を用いて不確定な事象を捉え考察する場面において、事象に即して解釈したことを数学的に表現することができるか、多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解しているかどうかをみる」ことが出題の趣旨であり、多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解することはできている。
- ◆問題番号6(1)は、「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる」ことが出題の趣旨であり、同じ2つの偶数の和が4の倍数になることの説明を振り返り、具体的な数を用いて確かめることについてはできている。

③課題がみられた問題とその分析

問題番号	問題の概要																																																																																
4	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ																																																																																
<p>4 下のアからエまでの表は、yがxの一次関数である関係を表しています。この中から、変化の割合が2であるものを1つ選びなさい。</p> <p>ア</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <tr><td>x</td><td>...</td><td>-6</td><td>-4</td><td>-2</td><td>0</td><td>2</td><td>4</td><td>6</td><td>...</td></tr> <tr><td>y</td><td>...</td><td>-11</td><td>-7</td><td>-3</td><td>1</td><td>5</td><td>9</td><td>13</td><td>...</td></tr> </table> <p>イ</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <tr><td>x</td><td>...</td><td>-6</td><td>-4</td><td>-2</td><td>0</td><td>2</td><td>4</td><td>6</td><td>...</td></tr> <tr><td>y</td><td>...</td><td>-5</td><td>-3</td><td>-1</td><td>1</td><td>3</td><td>5</td><td>7</td><td>...</td></tr> </table> <p>ウ</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <tr><td>x</td><td>...</td><td>-6</td><td>-4</td><td>-2</td><td>0</td><td>2</td><td>4</td><td>6</td><td>...</td></tr> <tr><td>y</td><td>...</td><td>-2</td><td>-1</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>...</td></tr> </table> <p>エ</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>x</td><td>...</td><td>-6</td><td>-4</td><td>-2</td><td>0</td><td>2</td><td>4</td><td>6</td><td>...</td></tr> <tr><td>y</td><td>...</td><td>-7</td><td>-4</td><td>-1</td><td>2</td><td>5</td><td>8</td><td>11</td><td>...</td></tr> </table>	x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...	y	...	-11	-7	-3	1	5	9	13	...	x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...	y	...	-5	-3	-1	1	3	5	7	...	x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...	y	...	-2	-1	0	1	2	3	4	...	x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...	y	...	-7	-4	-1	2	5	8	11	...	<div style="border: 2px solid #ff00ff; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>正答率： 福岡市…36.3% 全 国…37.9% 無回答率： 福岡市…0.4% 全 国…0.4%</p> </div> <div style="border: 1px solid #ffa500; padding: 5px;"> <p>【正答】ア</p> </div>
x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...																																																																								
y	...	-11	-7	-3	1	5	9	13	...																																																																								
x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...																																																																								
y	...	-5	-3	-1	1	3	5	7	...																																																																								
x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...																																																																								
y	...	-2	-1	0	1	2	3	4	...																																																																								
x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...																																																																								
y	...	-7	-4	-1	2	5	8	11	...																																																																								
<p>(正答以外の解答状況) イと解答しているもの…33.2% ウと解答しているもの…17.7% エと解答しているもの…12.3%</p> <div style="border: 1px dashed #008000; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>◆イについては、変化の割合を、表の隣り合う二つのyの値の差ととらえたと考えられる。ウについては、変化の割合を、$\frac{x \text{の増加量}}{y \text{の増加量}}$と捉えた、エについては、変化の割合を、$x=0$のときの$y$の値と捉えたと考えられる。いずれも、一次関数についての理解が十分ではないといえる。</p> <p>◆数学において、資質・能力を育成していくためには、学習過程の果たす役割が極めて重要であり、数学的に問題を発見・解決する過程を学習過程に反映することが重要である。<u>生徒が目的意識をもって数学的に問題発見・解決する過程を遂行することに配慮した授業を行うことが求められる。</u></p> </div>																																																																																	

問題番号	問題の概要
------	-------

9(2)

∠ABEと∠CBFの和が30°になる理由を示し、∠EBFの大きさがいつでも60°になることの説明を完成する

(2) 琴音さんは、次の図2や図3のように、21ページの図1の長方形ABCDの辺の長さをいろいろに変えた図をかきました。このときも、△ABE≡△CFBが成り立つので、EB=BFがいえます。琴音さんは、EB=BF以外にも、辺や角についていえることがないか調べました。

∠ABE+∠CBF=30°を示すことで、長方形ABCDの辺の長さを変えても、∠EBFの大きさがいつでも60°になることが説明できます。琴音さんの考えの◇にある△ABE≡△CFBと∠EAB=150°はすでにわかっていることとして、∠ABE+∠CBF=30°になることを下の説明の□に示し、∠EBFの大きさがいつでも60°になることの説明を完成しなさい。

図2

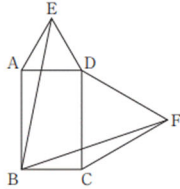
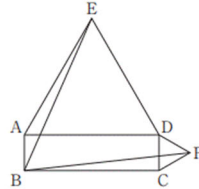


図3

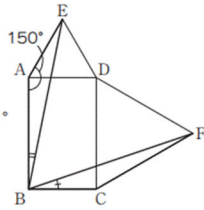


調べたことから、琴音さんは、長方形ABCDの辺の長さを変えても、∠EBFの大きさがいつでも60°になると予想し、次のように考えました。

琴音さんの考え

◇ ∠EBFについて、
 $\angle ABC = 90^\circ$ より、
 $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ がいえれば、
 $\angle EBF = 90^\circ - 30^\circ$ となり、
 $\angle EBF$ が60°になることがいえる。

◇ $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ になることは、 $\triangle ABE \equiv \triangle CFB$ からわかる等しい角と、
 $\angle EAB = 150^\circ$ を用いて示すことができる。



(正答の条件)

- (a) $\angle AEB = \angle CBF$
- (b) $\angle ABE + \angle AEB = 30^\circ$
- (c) $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$

説明

正答率： 福岡市…11.9%
 全国…12.5%
 無回答率： 福岡市…35.9%
 全国…38.5%

∠ABE+∠CBF=30°になることが示せたので、
 $\angle EBF = 90^\circ - (\angle ABE + \angle CBF)$ より、
 $\angle EBF = 90^\circ - 30^\circ = 60^\circ$ になる。

【正答例】

△ABE≡△CFBより、合同な図形の対応する角は等しいから、 $\angle AEB = \angle CBF$ …①
 △ABEにおいて、三角形の内角の和は180°で、 $\angle EAB = 150^\circ$ であるから、
 $150^\circ + \angle ABE + \angle AEB = 180^\circ$
 $\angle ABE + \angle AEB = 30^\circ$ …②
 ①、②より $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$
 したがって、 $\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和は30°になる。

(正答以外の解答状況)

- ア 根拠として $\angle EBF = 60^\circ$ を用いているもの…4.5%
- イ (a) (b)のどちらかについての記述がないもの…6.6%
- ウ (c)について記述しているもの…10.3%
- エ 上記以外の解答…35.9%

- ◆アについては、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考えることができていない。
- ◆イについては、△ABE≡△CFBより、 $\angle AEB = \angle CBF$ や $150^\circ + \angle ABE + \angle AEB = 180^\circ$ より $\angle ABE + \angle AEB = 30^\circ$ を記述できているが、それを根拠として説明を続けることができていない。
- ◆ウエについては、証明の根拠として用いられる三角形の合同条件及び、三角形の内角の和に関することを見いだすことができなかつたと考えられる。
- ◆図形の性質を考察する場面では、成り立つと予想した事柄について、論理的に考察し、それを数学的に表現することが大切である。正答率の低さや、正答以外の解答状況及び無回答率から、「筋道を立てて考えること」「事象に即して解釈したことを数学的に表現すること」「事柄が成り立つ理由を数学的に説明すること」ができるように指導を充実させることが求められる。

(8) 中学校理科の調査結果について

①領域及び観点ごとの調査結果

全国平均と比較して、		上回っている	下回っている		
分類	区分	平均正答率(%)			
		福岡市	全国(公立)		
全体		50	49.3		
学習指導要領の領域	「エネルギー」を柱とする領域	41.7	41.9		
	「粒子」を柱とする領域	51.7	50.9		
	「生命」を柱とする領域	58.2	57.9		
	「地球」を柱とする領域	44.6	44.3		
評価の観点	知識・技能	46.0	46.1		
	思考・判断・表現	51.3	51.0		
	主体的に学習に取り組む態度				

- ◆領域では、「粒子」「生命」「地球」を柱とする領域において、全国平均を上回った。
- ◆評価の観点では、「思考・判断・表現」において、全国平均を上回った。

②平均正答率が高かった問題

(%)

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
3 (1)	化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができる	81.2	80.1	+1.1
1 (2)	モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できる	79.5	78.5	+1.0

- ◆問題番号3(1)は、「化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる」ことが出題の趣旨であり、化学変化は原子や分子のモデルで説明できることについてはできている。
- ◆問題番号1(2)は、「モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画することができるかどうかをみる」ことが出題の趣旨であり、条件を制御した実験を計画することについてはできている。

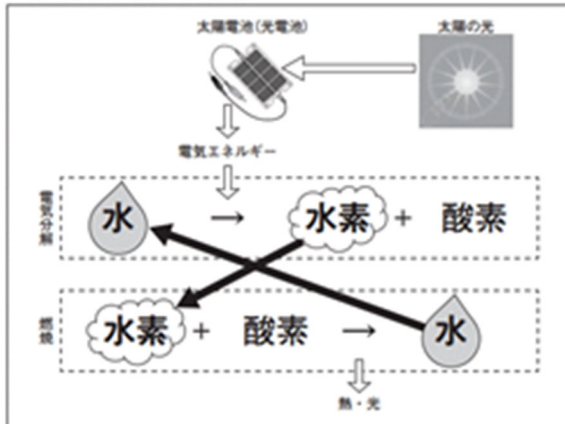
③課題がみられた問題とその分析

問題番号	問題の概要
3 (3)	水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する。



ここでは、太陽電池などで作った電気エネルギーを使って、水を分解しています。発生させた水素は、炉火の燃料にも使われました。
 このようにして発生させた水素を燃料として使うしくみの例を、下の図に表しました。

図 水素を燃料として使うしくみの例



水素を燃料として使うしくみの例で電気分解と燃焼を繰り返すとき、図の水の質量は、どのように考えられますか。

水の質量は X と考えられます。

水素を燃料として使うしくみの例では、水素がずっと使えます。

この水素を燃料として使うしくみの例では、水を電気分解して発生させた水素を使い続けるために、おおもとして Y が必要です。

(2) X に当てはまる適切なものを、下のアからウまでの中から1つ選びなさい。

- ア 小さくなる
- イ 変化しない
- ウ 大きくなる

(3) Y に当てはまる最も適切な言葉を 水素を燃料として使うしくみの例の図の中から1つ選び、書きなさい。

【正答】太陽の光（太陽も可）

正答率： 福岡市…27.5%
 全国…24.8%
 無回答率： 福岡市…3.4%
 全国…4.3%

(正答以外の解答状況)

- ア 電気エネルギー又は太陽電池と解答しているもの…21.4%
- イ 電気分解又は燃焼に関する物質と解答しているもの…40.6%
- ウ 光・熱と解答しているもの…1.6%

◆ア、イ、ウについては、水素を取り出すために必要な電気エネルギーを得るためのおおもととして、太陽の光以外のものを指摘している。このことから、化学変化に関する知識と「エネルギー」を柱とする領域の知識を関連付け、分析して解釈することに課題があると考えられる。

◆この問題は、「水素の利用について科学的に探究する学習場面において、化学変化に関する知識及び技能を活用できるかどうか、また、別の領域の知識及び技能とを関連付けて分析・解釈することができるかをみる」ことが出題の趣旨である。理科では、身に付けた知識及び技能を分野や領域を横断して関連付け、身近な事象を多面的、総合的に捉えることが大切である。授業では、分野や領域を横断して関連付け、科学的に探究する指導を充実させることが求められる。

問題番号 問題の概要

5 (1) おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する

5 ばねを押すとき、加える力の大きさとばねが縮む長さの関係について、理科の授業で科学的に探究しました。
(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

押して使うばねを探究する場面

ばねの伸びは、加える力の大きさと比例の関係がありました。

ばねは、生活の中で押して使うことが多いですね。

ばねを押すときも、比例の関係が成り立つのかな。

ノートの一部

【課題】
ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか。

【実験の計画】
図1の装置をつくり、ばねに加える力の大きさを变化させたときのばねの長さを3回測定して平均をとり、ばねが縮む長さを計算してグラフに表す。

図1

【実験の結果】

力の大きさ(N)	0	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5
ばねの長さ(cm)	10.0	8.0	6.0	4.0	4.0	4.0
縮む長さ(cm)	0	2.0	4.0	6.0	6.0	6.0

【考察】
.....

(1) 図2のように、ばねにのせたおもりが静止したとき、矢印で表したおもりにはたらく重力とつり合う力を、下のアからエまでのの中から1つ選びなさい。
また、選んだ力の説明として適切なものを、下の力からケまでのの中から1つ選びなさい。

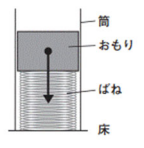
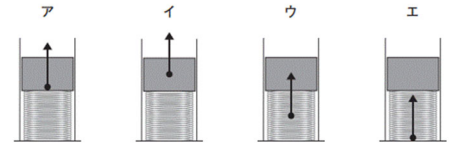


図2 おもりにはたらく重力



- カ おもりがばねを押す力
- キ ばねがおもりを押す力
- ク おもりが床を押す力
- ケ 床がおもりを支える力

【正答】アとキ

正答率： 福岡市...19.3%
 全 国...15.3%
無回答率： 福岡市...0.2%
 全 国...0.2%

(正答以外の解答状況)

ア 矢印はアと解答しているが、説明についてキ以外を解答しているもの...2.6%
イ 矢印はア以外を解答し、説明についてはキを解答しているもの...59.1%
ウ 矢印はア以外を解答し、説明についてもキ以外を解答しているもの...17.9%

◆アについては、おもりに働く重力とつりあう力を矢印で表したものを指摘できているが、つりあう力の説明は正しく指摘できていない。矢印で表した力の説明に課題があると考えられる。

◆イについては、おもりに働く重力とつりあう力の説明は指摘できているが、つりあう力を矢印で表したものを正しく指摘できていない。59.1%と半数以上の生徒が、作用点を力の矢印の始点として表すことに課題があると考えられる。

◆力には、大きさ、向き、作用点という要素があり、力を矢印の大きさと向きを用いて表すことができることを理解させることに加え、これらの学習の中で、身近なところにある力の具体例などにも触れ、生徒の興味・関心を高めることも大切である。

3 経年変化からみた学力の状況について

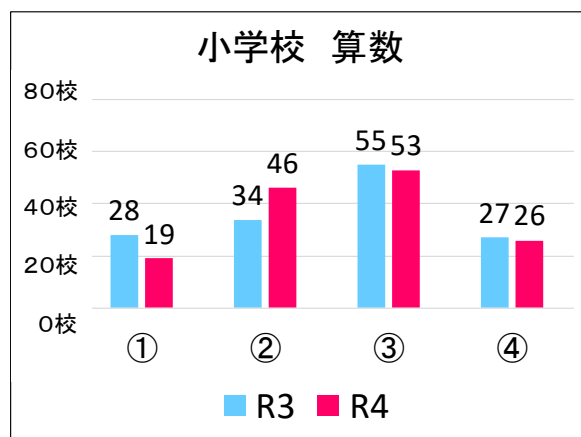
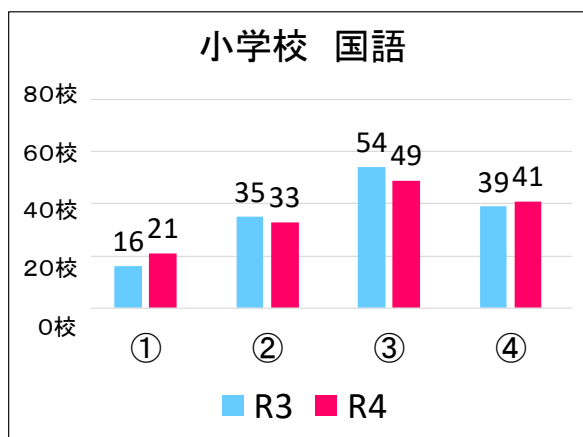
(1) 令和3年度調査と令和4年度調査の4段階の学校数の比較

「4段階」とは

全国と各学校を比較し、その結果を「上回っている」「やや上回っている」「同程度である」「努力を要する」の4段階で区分したもの

【小学校】

①上回っている、②やや上回っている、③同程度である、④努力を要する

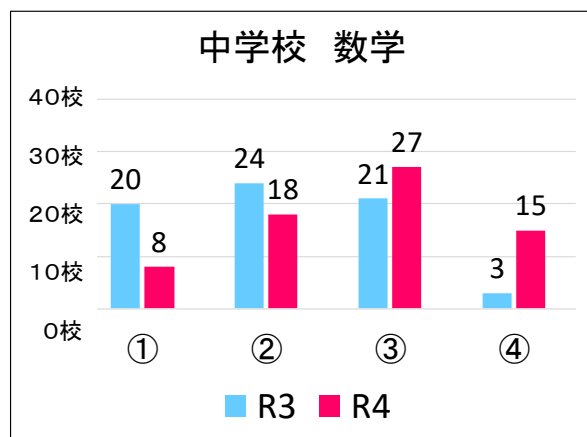
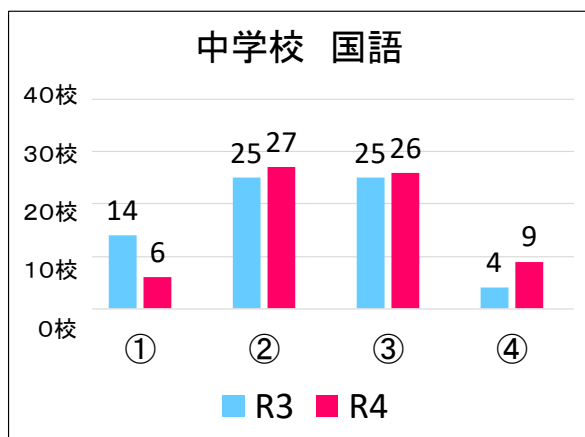


◆国語については、「①上回っている」「④努力を要する」の学校数が増加し、「②やや上回っている」「③同程度である」の学校数が減少している。

◆算数については、「②やや上回っている」の学校数が増加し、「①上回っている」「③同程度である」「④努力を要する」の学校数が減少している。

【中学校】

①上回っている、②やや上回っている、③同程度である、④努力を要する



◆国語については、「②やや上回っている」「③同程度である」「④努力を要する」の学校数が増加し、「①上回っている」の学校数が減少している。

◆数学については、「③同程度である」「④努力を要する」の学校数が増加し、「①上回っている」「②やや上回っている」の学校数が減少している。

(2) 同一児童生徒群（令和元年度小学校6年生、令和4年度中学校3年生）の結果比較

○学習指導要領の内容・領域ごとの平均正答率

正答率（％）			正答率（％）		
国語	R 1 小6福岡市	全国との差	R 4 中3福岡市	全国との差	
話すこと・聞くこと	70.9	-1.4	64.7	0.8	話すこと・聞くこと
書くこと	54.3	-0.2	48.7	2.2	書くこと
読むこと	81.9	0.2	68.6	0.7	読むこと
算数・数学	R 1 小6福岡市	全国との差	R 4 中3福岡市	全国との差	
数と計算	64.4	1.2	57.6	0.2	数と式
図形	77.9	1.2	43.3	-0.3	図形
量と測定	54.2	1.3	43.2	-0.4	関数
数量関係	69.7	1.4			

- ◆国語については、令和元年度小学校調査において「話すこと・聞くこと」「書くこと」の内容で、全国平均を下回ったものの、令和4年度中学校調査では、どちらも全国平均を上回った。
- ◆中でも、「書くこと」において、大きな向上が見られた。
- ◆算数・数学については、令和元年度小学校調査においてすべての領域で、全国平均を上回ったが、令和4年度中学校調査において「図形」「関数」領域において下回った。

4 児童質問紙及び学校質問紙調査の結果について

(1) 教科に関する児童質問紙及び学校質問紙調査の結果（肯定的回答率の比較）

①小学校国語

【児童質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
49	国語の勉強は好きですか	55.8	59.2	-3.4
50	国語の勉強は大切だと思いますか	93.2	93.3	-0.1
51	国語の授業の内容はよく分かりますか	81.1	84.0	-2.9

【学校質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
41	調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行いましたか	88.9	92.7	-3.8
42	調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業を行いましたか	91.0	95.6	-4.6

②小学校算数

【児童質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
53	算数の勉強は好きですか	60.6	62.5	-1.9
54	算数の勉強は大切だと思いますか	94.6	94.2	+0.4
55	算数の授業の内容はよく分かりますか	79.7	81.2	-1.5

【学校質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
46	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	70.8	84.3	-13.5
47	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行いましたか	88.9	92.4	-3.5
48	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫していましたか	95.8	97.1	-1.3

③小学校理科

【児童質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
61	理科の勉強は好きですか	80.2	79.7	+0.5
62	理科の勉強は大切だと思いますか	85.9	86.5	-0.6
63	理科の授業の内容はよく分かりますか	89.0	88.5	+0.5

【学校質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
50	調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか	92.3	93.9	-1.6
51	調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	90.3	94.2	-3.9
52	調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行いましたか	96.5	97.1	-0.6

- ◆小学校国語、算数において、「勉強が好き」「よく分かる」については、全国平均を下回ったが、小学校理科においては、全国平均を上回った。
- ◆小学校算数において、「実生活における事象との関連を図った授業を行った」との回答率は、全国平均を大きく下回った。

④中学校国語

【生徒質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
49	国語の勉強は好きですか	64.8	61.9	+2.9
50	国語の勉強は大切だと思いますか	94.8	93.2	+1.6
51	国語の授業の内容はよく分かりますか	79.4	81.2	-1.8

【学校質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
41	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行いましたか	92.9	96.1	-3.2
42	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行いましたか	91.4	95.8	-4.4

⑤中学校数学

【生徒質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
53	数学の勉強は好きですか	59.2	58.1	+1.1
54	数学の勉強は大切だと思いますか	89.0	86.6	+2.4
55	数学の授業の内容はよく分かりますか	74.4	76.2	-1.8

【学校質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
46	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	72.9	82.8	-9.9
47	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行いましたか	72.8	78.7	-5.9
48	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫していましたか	100.0	97.0	+3.0

⑥中学校理科

【生徒質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
61	理科の勉強は好きですか	67.6	66.4	+1.2
62	理科の勉強は大切だと思いますか	78.6	76.8	+1.8
63	理科の授業の内容はよく分かりますか	75.3	75.2	+0.1

【学校質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
49	調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか	88.5	94.4	-5.9
50	調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	95.7	96.8	-1.1
52	調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行いましたか	82.9	94.6	-11.7

- ◆中学校国語、数学、理科において、「勉強は好き」「大切だと思う」については、全国平均を上回ったが、「よく分かる」については中学校国語、数学において、全国平均を下回った。
- ◆中学校理科において、「勉強は好き」「大切だと思う」「よく分かる」すべてについて、全国平均を上回った。
- ◆中学校理科において、「観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行いましたか」との回答率は、全国平均を大きく下回った。

(2) 同一児童生徒群の児童生徒質問紙調査の結果比較

(%)

朝食を毎日食べていますか			
	R 1 小学校	R 4 中学校	差
肯定的回答率	93.4	90.6	
全国との差	-1.9	-1.3	0.6

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか			
	R 1 小学校	R 4 中学校	差
肯定的回答率	91.1	92.9	
全国との差	-0.5	0.7	1.2

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか			
	R 1 小学校	R 4 中学校	差
肯定的回答率	71.5	55.1	
全国との差	0	-3.4	-3.4

自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか (R1…ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがありますか)			
	R 1 小学校	R 4 中学校	差
肯定的回答率	95.1	85.5	
全国との差	-0.1	-1.1	-1

難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか			
	R 1 小学校	R 4 中学校	差
肯定的回答率	76.7	65.6	
全国との差	-2.3	-1.5	0.8

国語の授業の内容はよく分かりますか			
	R 1 小学校	R 4 中学校	差
肯定的回答率	81.0	79.4	
全国との差	-3.9	-1.8	2.1

算数・数学の授業の内容はよく分かりますか			
	R 1 小学校	R 4 中学校	差
肯定的回答率	82.6	74.4	
全国との差	-0.9	-1.8	-0.9

- ◆ 基本的な生活習慣については、朝食を毎日食べる習慣は、令和元年度小学校6年生時点から、令和4年度中学校3年生では、下回っている。起床時刻の習慣については、令和元年度小学校6年生時点から向上している。
- ◆ 「家で、自分で計画を立てて勉強すること」については、令和元年度小学校6年生時点から、令和4年度中学校3年生では、下回っている。
- ◆ 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」については、令和元年度小学校6年生時点から、令和4年度中学校3年生で上回っている。
- ◆ 「国語の理解度」「算数・数学の理解度」については、令和元年度小学校6年生時点から、令和4年度中学3年生では、下回っている。

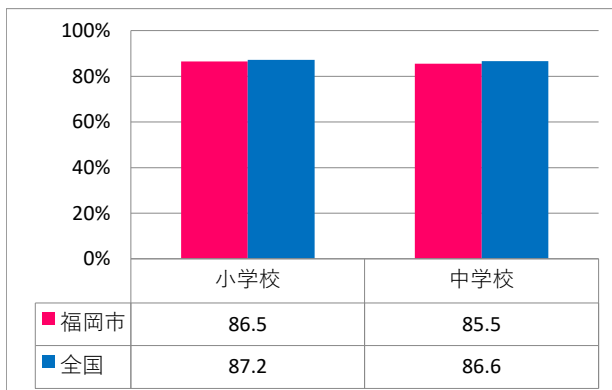
(3) 児童生徒質問紙における学習意欲や学習習慣等の結果と平均正答率の傾向について

①学習意欲

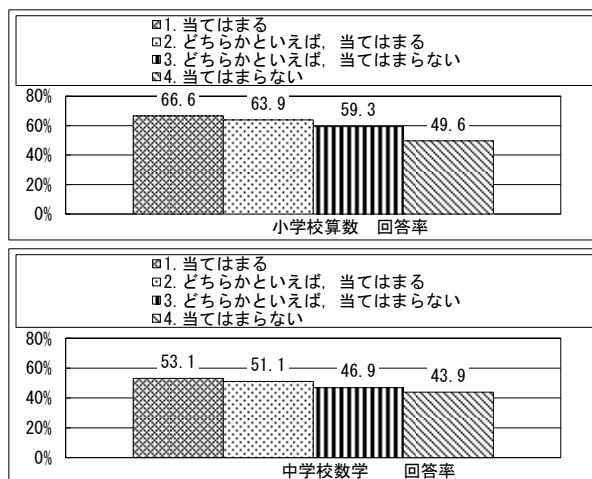
・児童生徒質問紙（小中ともに10）

自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。

【児童生徒質問紙肯定的回答率】



【平均正答率】



◆小・中学校ともに、自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている児童生徒が、8割を超えている。

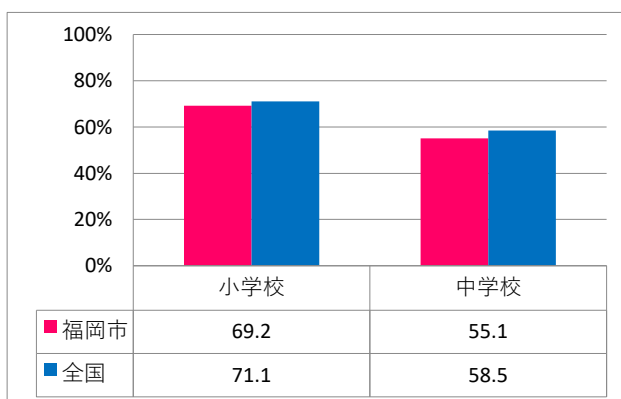
◆自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている児童生徒の算数・数学における平均正答率は、やり遂げていないと回答した児童生徒と比べて高い。

②計画的な勉強

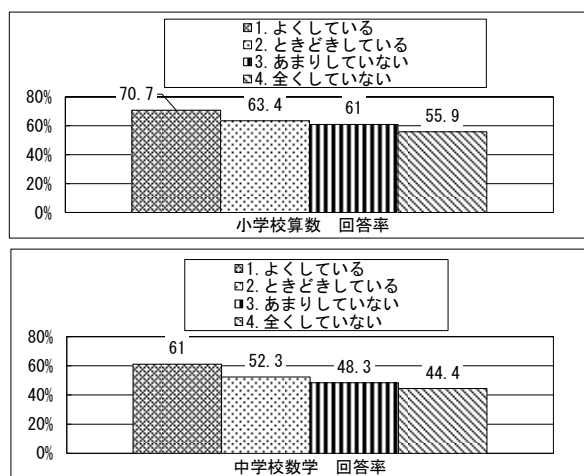
・児童生徒質問紙（小中ともに20）

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）

【児童生徒質問紙肯定的回答率】



【平均正答率】



◆家で自分で計画を立てて勉強をしている児童は7割程度、生徒は5割超である。

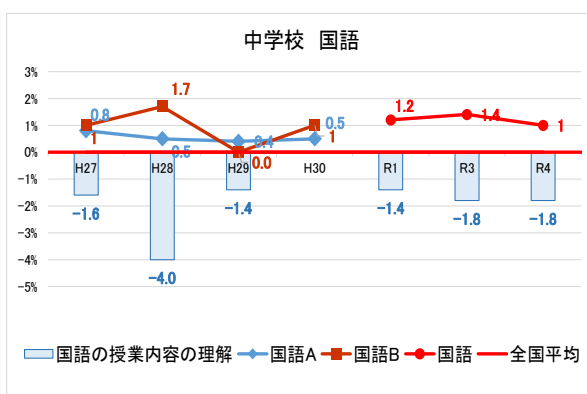
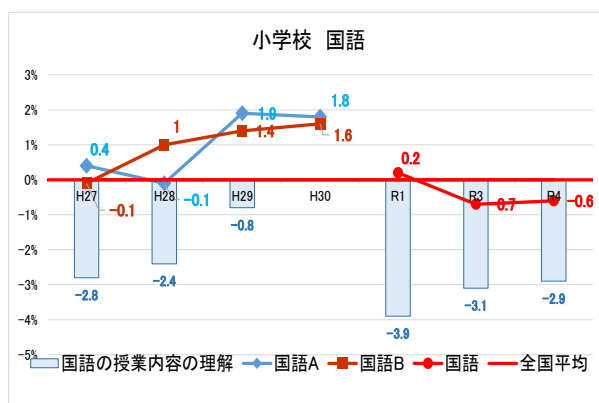
◆家で自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の算数・数学における平均正答率は、していないと回答した児童生徒と比べて高い。

(4) 授業内容の理解に関する児童生徒質問紙の結果と平均正答率の比較

福岡市ではかねてより、児童生徒の授業内容の理解について、第2次福岡市教育振興基本計画における評価指標とするなど重視している。ここでは、平成27年度から令和4年度までの、児童生徒質問紙における国語及び算数・数学の授業内容の理解度に関する質問項目（肯定的回答率の全国との差）と、各教科平均正答率の全国平均正答率との差の相関関係について整理を試みた。

※平成30年度については、児童生徒質問紙において国語の授業内容の理解に関する質問項目なし

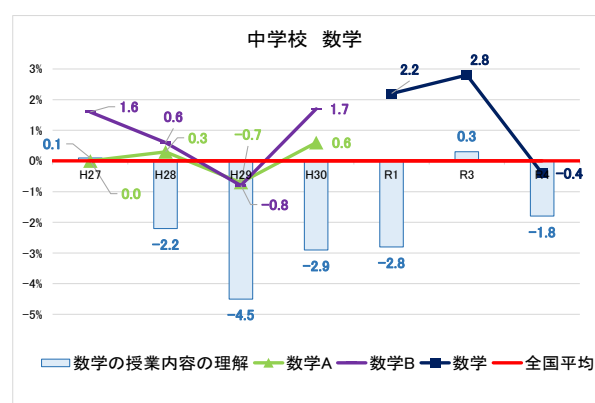
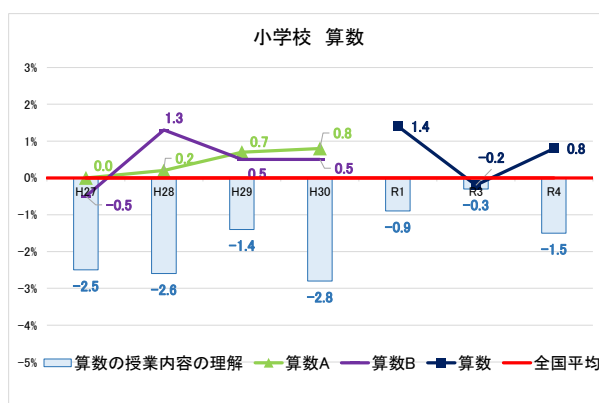
① 国語の状況



◆小学校国語では、授業内容の理解の値が全国よりも大きく下回っている場合において、平均正答率の全国との差の値についても低くなる傾向がみられる。特に平成27年度、28年度、令和3年度、4年度においてその傾向が強く表れている。

◆中学校国語では、小学校国語のような傾向はみられない。

② 算数・数学の状況



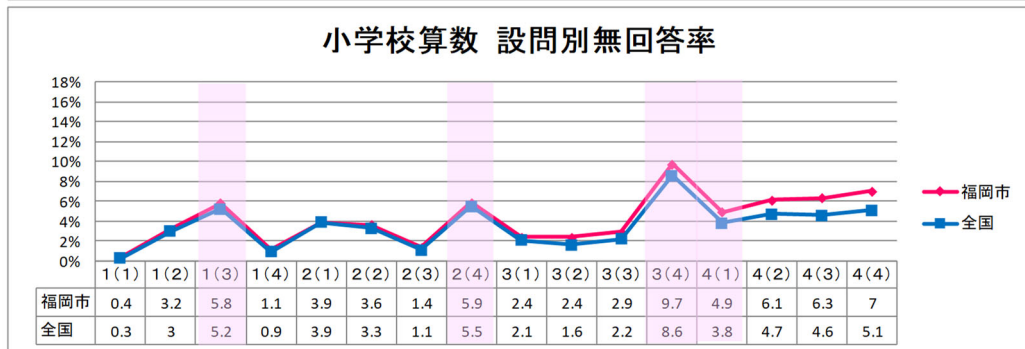
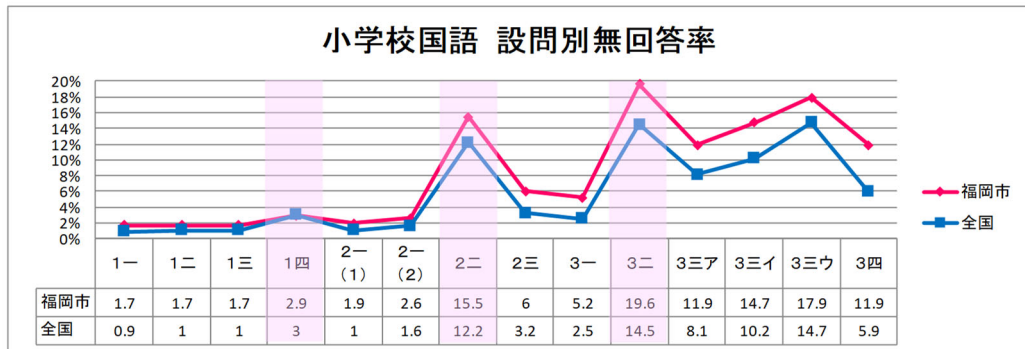
◆小学校算数では、授業内容の理解の値と平均正答率との相関はみられない。

◆中学校数学では、授業内容の理解の値が低くなる場合において、平均正答率の差の値についても低下する傾向がみられる。特に、平成29年度と令和4年度に授業内容の理解と平均正答率との関係が強く表れている。中学校数学においては、生徒の授業内容の理解と平均正答率との関係に注視する必要がある。

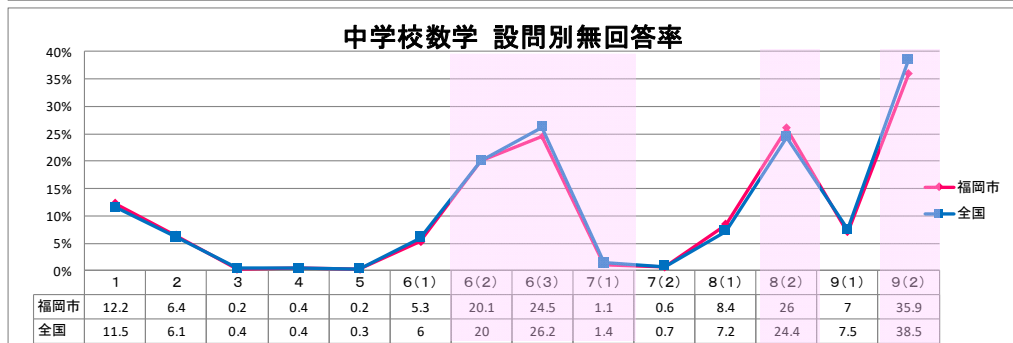
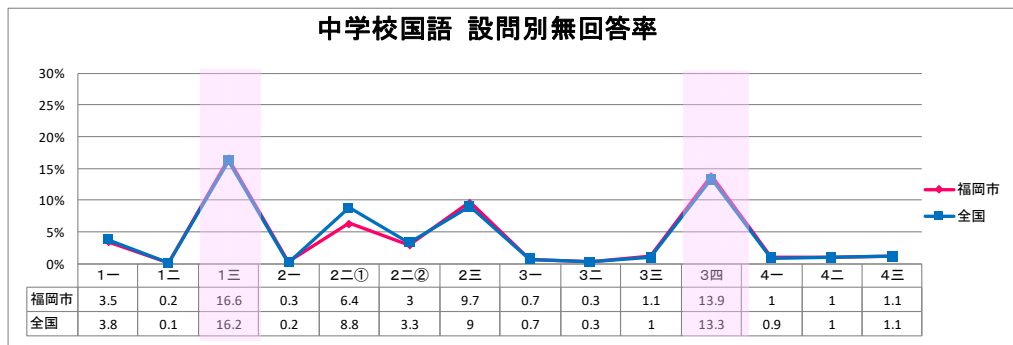
5 問題へ無回答率の傾向について

(1) 令和4年度の設問別無回答率の状況

【小学校】



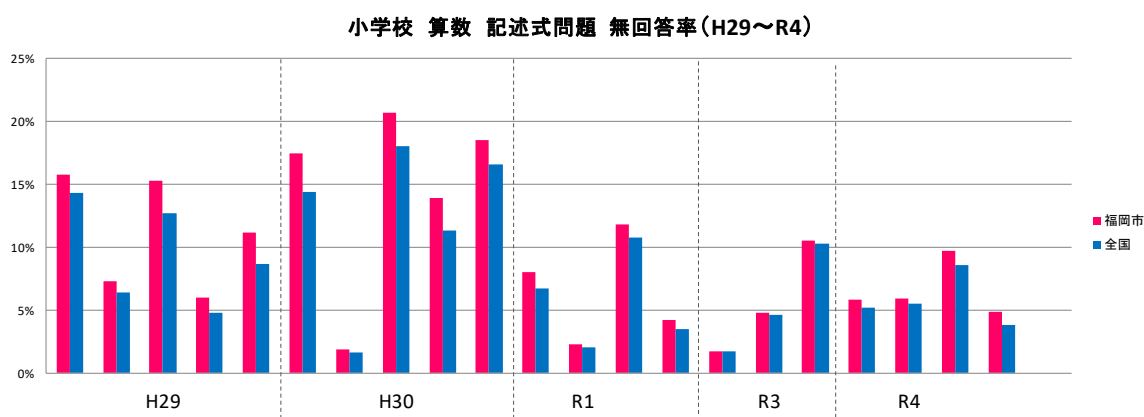
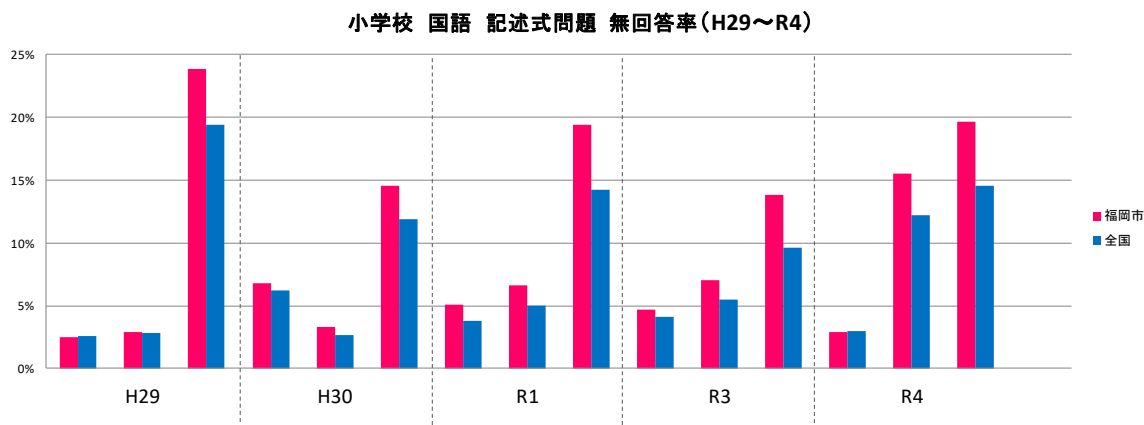
【中学校】



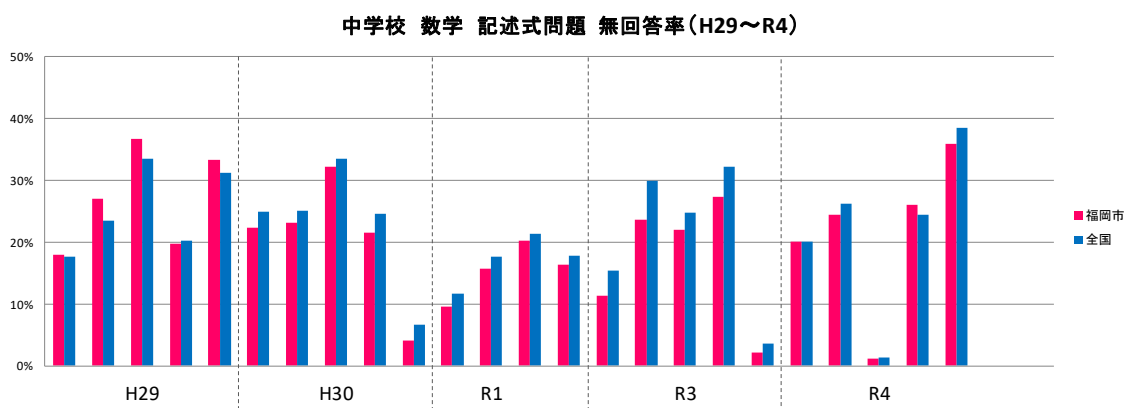
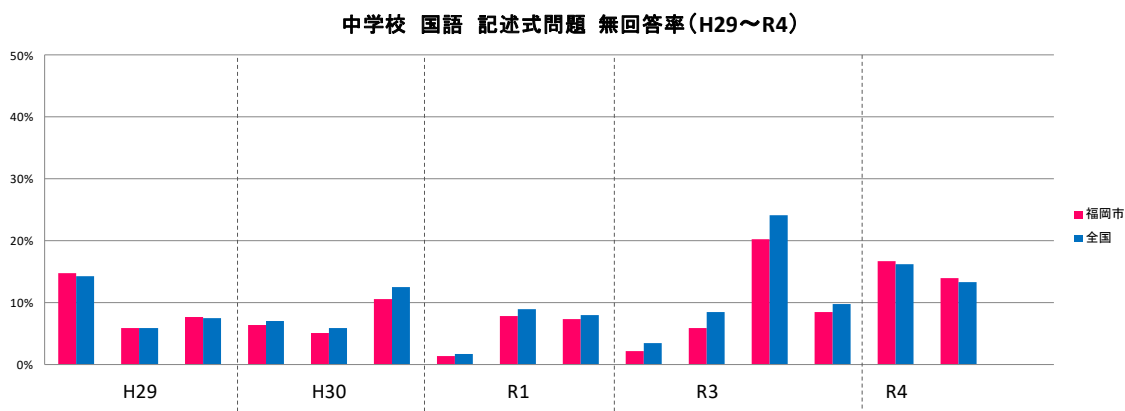
◆小学校では、無回答率が全国より上回る問題数が多い傾向がみられる。特に、国語において、その傾向が顕著にみられる。ピンク網掛け部分が記述式の問題であり、国語において、全国との差が開く傾向がみられる。

◆中学校では、国語、数学ともに、無回答率が全国と同程度である。

(2) 平成 29 年度から令和 4 年度における記述式問題での無回答率の状況
【小学校】



【中学校】



- ◆小学校国語では、無回答率が全国より高い傾向が見られる。特に、どの年度においても最後の記述式問題において、無回答率が全国を大きく上回っている。
- ◆小学校算数では、国語と同様に記述式問題の無回答率が、全国より上回る傾向にあるが、令和元年度及～令和4年度については、全国との差の開きが小さくなっている。
- ◆中学校国語では、無回答率が全国より低い傾向が見られる。
- ◆中学校数学では、平成30年度～令和3年度まで無回答率が、全国より低かったが、令和4年度は高い問題も見られる。

6 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組みの状況

(1) 主体的・対話的で深い学びに関する質問項目①

(学校質問紙調査と児童生徒質問紙調査の比較)

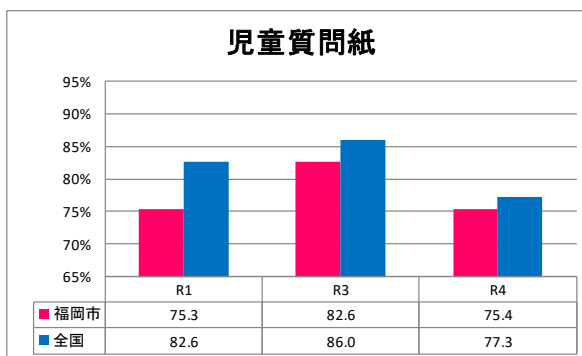
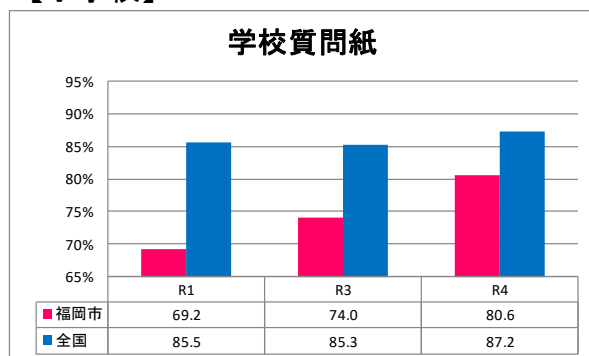
・学校質問紙 (小中ともに 23)

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

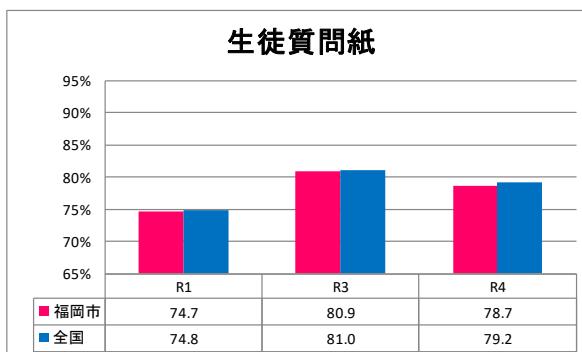
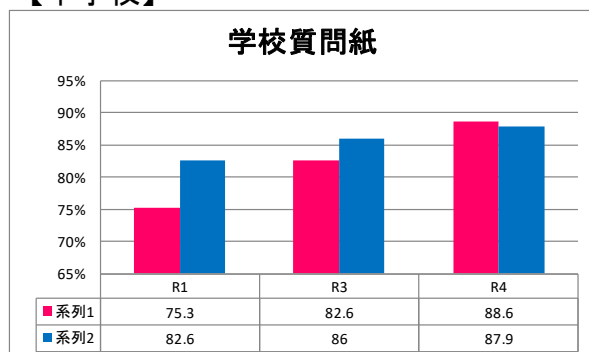
・児童生徒質問紙 (小中ともに 39)

5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

【小学校】



【中学校】



- ◆小中ともに学校質問紙 23 の「調査対象学年の児童(生徒)は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」については、令和3年度まで、全国を下回っていたが、令和4年度は中学校において上回っている。小学校においては、令和元年度及び令和3年度と全国を大きく下回っていたが、令和4年度は、全国との差は縮小している。
- ◆児童生徒質問紙 39 の「5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」については、小学校は全国を下回り、中学校においてもわずかに全国を下回っている。小学校は、令和3年度までと比較して、全国との差が縮小している。
- ◆学校質問紙において向上傾向がみられることから、「自分で考え、自分から取り組む」ことについて、各学校における取組みが改善されているものと考えられるが、児童生徒の意識については、全国的にも低下している点は注視する必要がある。

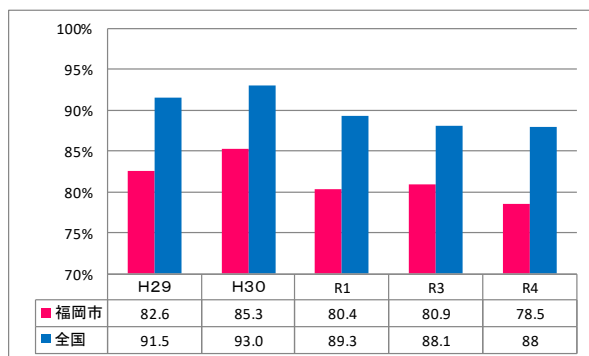
(2) 主体的・対話的で深い学びに関する質問項目②

①指導方法工夫改善について（学校質問紙調査 肯定的回答率の結果）

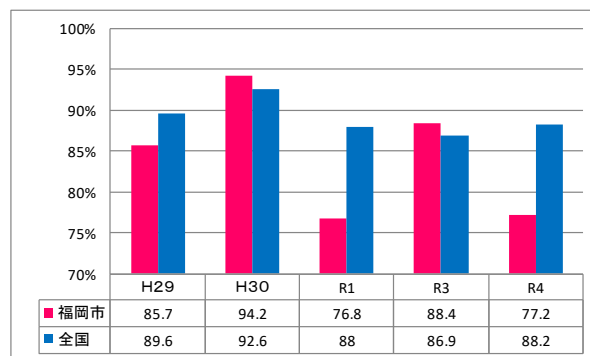
・学校質問紙（小中ともに 30）

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか

【小学校】



【中学校】



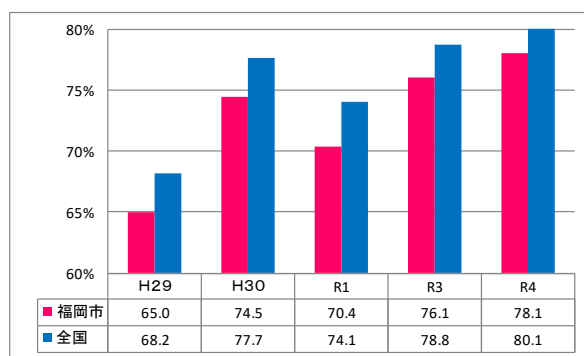
- ◆学校質問紙 30 は、各学校における指導方法の工夫改善に係る質問項目である。
- ◆小学校においては、令和 3 年度から低下しており、全国も下回っている。
- ◆中学校においては、令和元年度大幅に全国を下回っていたものの、令和 3 年度は全国を上回る値まで向上したが、令和 4 年度は大幅に下回っている。

②話し合う活動について（児童生徒質問紙 肯定的回答率の結果）

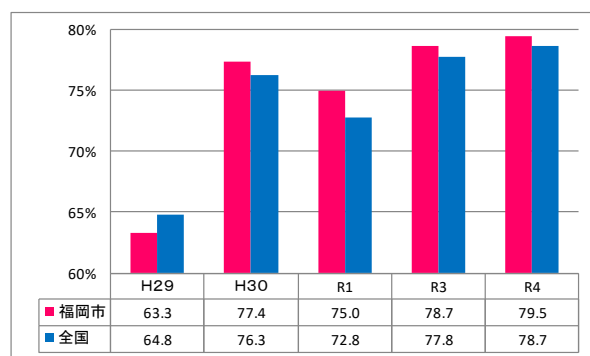
・児童生徒質問紙（小中ともに 43）

学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

【小学校】



【中学校】



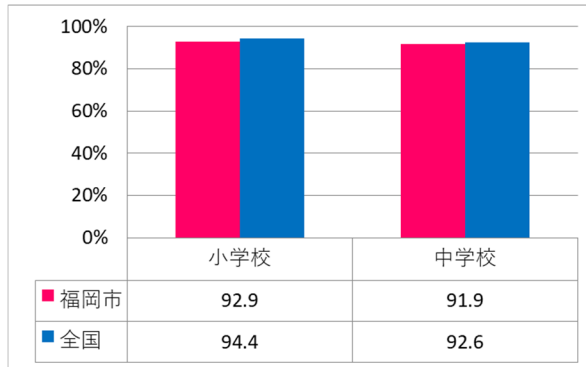
- ◆児童質問紙 43 は、対話的な学びに関する質問項目である。
- ◆小学校においては、全国を下回っているものの、令和 3 年度から向上している。
- ◆中学校においては、平成 30 年度から全国を上回る値で推移しているとともに、令和 3 年度から向上している。

7 ICTを活用した学習状況について

・児童生徒質問紙（小中ともに 36） 肯定的回答率

学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。

【児童生徒質問紙】

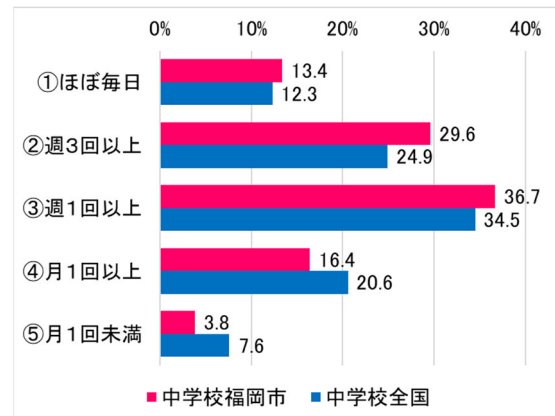
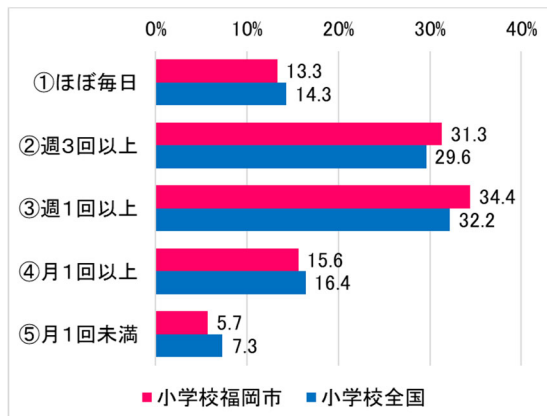


◆小・中学校ともに、ICT機器を使うことが勉強の役に立つと感じている児童生徒が、9割を超えている。

・児童生徒質問紙（小中ともに 33）

学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。

【児童生徒質問紙】



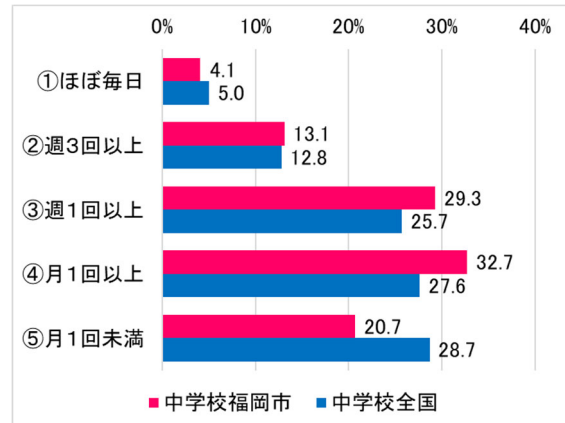
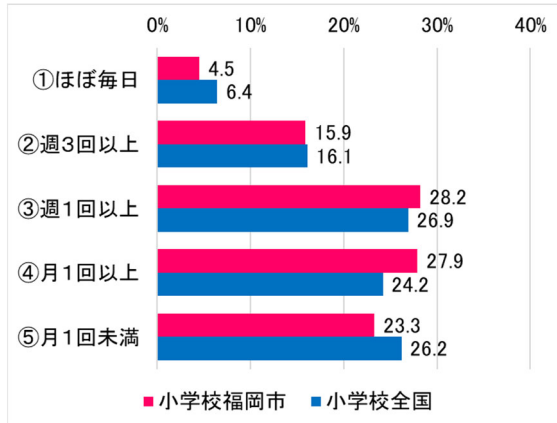
◆PC・タブレットなどのICT機器の活用について、授業中に自分で調べる場面で週1回以上使っていると回答した児童生徒は、ともに約8割程度。

◆中学校において、授業中に自分で調べる場面で、ICT機器を週1回以上使っている生徒は、全国より上回っている。

・児童生徒質問紙（小中ともに 34）

学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。

【児童生徒質問紙】

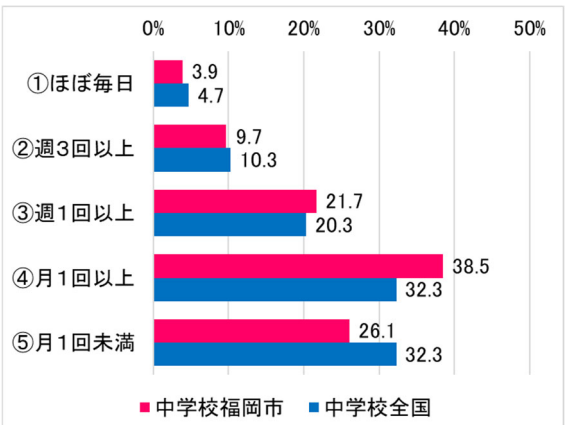
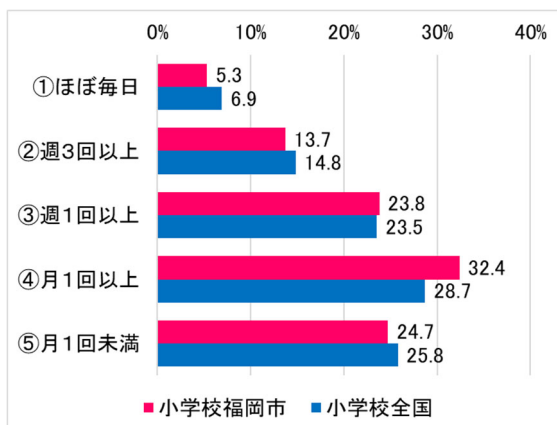


- ◆ PC・タブレットなどのICT機器の活用について、学級の友達と意見を交換する場面で週1回以上使っていると回答した児童生徒は、ともに約5割弱程度。
- ◆ 小学校、中学校ともに週1回以上～月1回以上の間の回答が多くなっている。

・児童質問紙（小中ともに 35）

学校で、自分の考えをまとめ発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。

【児童生徒質問紙】



- ◆ PC・タブレットなどのICT機器の活用について、自分の考えをまとめ発表する場面で週1回以上使っていると回答した児童は約4割程度、生徒は約3.5割弱程度。
- ◆ 小学校、中学校ともに月1回未満～月1回以上の間の回答が多くなっている。

8 今後の課題

- ◆友達と話し合ったことを基に深まった自分の考えを、相手に伝えるために表現することができていない。
- ◆学習したことを、生活場面でいかすことが苦手である。
- ◆児童生徒質問紙において、授業内容が「よく分からない」と回答している児童生徒は、学力が低い傾向にある。
- ◆児童生徒質問紙において「課題解決に自ら取り組んでいると思う」と回答した子どもの数は減少しているが、学校質問紙において「児童生徒は、課題解決に自ら取り組むことができていると思う」と回答した教師の数は増加しているなど、子どもと教師の意識に差がある。

9 取組みの方向性

(1) 各学校での取組み

- ◆子どもが「分かった」「できた」ことを実感する授業や、自分の考えと友達の考えを比較する過程を重視し、自らの学びの成果を自覚できる授業など、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組む。
- ◆「調べる」「意見交換する」「自分の考えを主張する」場面でのICTの効果的な活用を重視するとともに、「板書」「発問」などを工夫して子どもの考えをつくる授業もあわせて大切にする。
- ◆学校生活の中で、様々な問題に出会ったときに、子ども自らが解決方法を考えることができるよう、教師が意図的に働きかける。
- ◆ドリル的な補充学習にとどまらず、児童生徒の学習状況に応じた発展的・探究的な家庭学習の在り方を探り、従来の家庭学習にとどまらない「個別最適な学び」につながる家庭学習へチャレンジする。

(2) 教育委員会としての取組み

- ◆教師の自己評価を取り入れた「授業改善推進プラン」を基に、指導主事による各学校への指導・助言を行い、学校との協議を充実させるとともに、継続的なサポートを行う。
- ◆教師一人一人の授業力向上のため、「授業改善推進モデル校」の好事例を全市へ発信する。